

迫りくる看取り、介護難民時代！

～求められる介護と医療と看護の統合と一体的運用～

団塊の世代が75歳以上となる2025年には、リスクの高い後期高齢者の増加が想定されています。2025年ショックと呼ばれるこの問題によって、地域の方々の暮らしはいったいどう変わり、そしてそれにはどのような対応が必要なのでしょう。多方面で活躍中の上野千鶴子氏から、そのヒントをうかがいます。

- 日時 平成30年 **3月1日** (木)
午後7時00分～8時30分
- 場所 中野区産業振興センター3階大会議室
(中野区中野2-1 3-14)
- 講師 **上野 千鶴子** 氏
(社会学者・東京大学名誉教授・認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長)
- 参加費 無料
- 対象 中野区在住・在勤の方、または社会福祉士会 会員の方
- 定員 先着90名
- 申込み QRコードを読み込み申込フォームに入力してください。
2月1日～20日まで。
- 問合せ なかの社会福祉士会事務局
090-7246-7585 (丸山)
nakano.csw@gmail.com



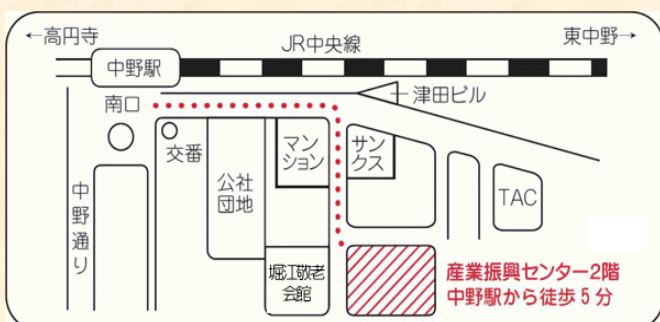
菅野勝男撮影

上野 千鶴子 氏

富山県生まれ。東京大学大学院教授を経て、現在は認定NPO法人WAN理事長を務める。

専門は女性学、ジェンダー研究。この分野のパイオニアであり、指導的な理論家のひとり。近年、高齢者の介護とケアの分野に研究領域を拡大している。

著書に『おひとりさまの老後』（法研）、『身の下相談にお答えします』『おひとりさまの最期』（朝日新聞出版）、最新刊に『世代の痛み 団塊ジュニアから団塊への質問状』（中公新書ラクレ）など。



なかの社会福祉士会とは！？

中野区内在住、在勤の社会福祉士が中心になって、2か月に1度の定期的な勉強会や懇親会を通じて「地域の福祉課題」を共有し、社会福祉士どうしのネットワークづくりの場としています。

東京社会福祉士会に登録していなくても、また社会福祉士の資格を持っていなくても会員になることができます。

→[なかの社会福祉士会](#)で検索